

定例記者会見資料
令和5年10月27日
総務部秘書課

令和5年『田辺市文化賞』の決定について

田辺市では、昭和45年に創設した「田辺市文化賞」の制度を継承し、毎年、この時期に市の文化（学術、芸術、体育、生活文化等）の発展に貢献された方に本賞を贈り、その功績を称えております。

創設から54回目を迎えた本年は、長年にわたり、郷土の民俗芸能の保存と伝承に尽力するとともに民俗芸能の魅力の発信に努めるなど地域文化の発展に寄与された **羽根 千恵子 様**と、古から続く紀州松煙墨の製墨技術を復活するとともに伝統を守りながらも新たな取組に挑戦するなど広く文化の発展に寄与された **堀池 雅夫 様**のお二方に本賞をお贈りすることといたしました。

なお、お二方の住所、贈呈式の日時等につきましては下記のとおりです。

記

【受賞者】

はね ちえこ
羽根 千恵子 氏 (76歳) [民俗芸能の伝承]
(田辺市本宮町請川)

ほりいけ まさお
堀池 雅夫 氏 (72歳) [紀州松煙墨の製作]
(田辺市文里一丁目)

※功績等については別紙のとおりです。

【贈呈式】

日 時：令和5年11月22日（水）午後1時30分～
場 所：田辺市役所 3階 第一会議室



はね ちえこ
羽根 千恵子 氏

生年月日 昭和22年8月4日生

住 所 田辺市本宮町請川

本宮町には、大瀬地区の「大瀬の太鼓踊」、住民が集団移転をして無人となった平治川地区の「平治川の長刀踊」、土河屋地区の「お夏清十郎踊り」、萩地区の「萩の餅搗踊」、伏拝地区の「伏拝の盆踊」の五つの踊りが県の無形民俗文化財に指定されている。四村川小学校では平成7年から民俗芸能の継承を目的に「大瀬の太鼓踊」を授業に取り入れており、平成14年に氏が赴任すると、小さい頃から踊りや太鼓に興味があったことから、その授業に積極的に参加し、以降「大瀬の太鼓踊」など地域の民俗芸能に意欲的に関わることとなる。

五つの踊りにはそれぞれ保存会があるが、少子高齢化の進展により人口減少が進み、それに伴い民俗芸能を習得する人口も減少し、次世代への伝承に困難さを伴うようになっていた。このようなことから、郷土の民俗芸能を未来に引き継いでいきたいと、氏が発起人となり、平成20年に熊野本宮伝統芸能教室と熊野本宮伝統芸能子ども教室を発足した。

「大瀬の太鼓踊」は、毎年8月に大瀬地区の盆行事として奉納される大瀬の盆踊りの中の一つであり、国選択無形民俗文化財（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）にも指定されている。

「平治川の長刀踊」は、源平合戦に敗れ平治川の地に落ちのびた平家の子孫らが、盂蘭盆に先祖の霊を慰めるために踊ったのが始まりといわれている。

氏は民俗芸能を継承することで郷土愛が芽生え、本宮町の活性化につながることを願い、熊野本宮伝統芸能教室では「大瀬の太鼓踊」など大瀬地区に伝わる盆踊りを、熊野本宮伝統芸能子ども教室では「平治川の長刀踊」を毎月定期的集まり、踊りの保存と伝承のため稽古に勤しむ。

このほか、「大瀬の太鼓踊」など関連する諸行事を後世に長く伝承するため、氏は熊野本宮伝統芸能教室・熊野本宮伝統芸能子ども教室や大瀬太鼓踊保存会の代表として、本宮地域の住民有志とともに、毎年夏には本宮町で開かれている「新成人を祝う会（令和4年から「二十歳を祝う会」に名称変更）」や「こだま祭」などの地域のイベント等で披露し、地域で伝承されてきた民俗芸能のすばらしさを伝えるとともにイベントや式典に花を添えている。また、第28回国民文化祭・やまなし2013「民謡・民舞の祭典」に出演するなど、郷土の民俗芸能を広く公開し、伝承意

欲の向上を図るとともに、民俗芸能への理解を深めようと活動に尽力する。

このように、氏が中心となった精力的な保存活動がなければ、脈々と世代を超えて伝承されてきた郷土の民俗芸能は、すでに消滅していたかも知れず、すでに消滅した地区や消滅しつつある地区の民俗芸能を継承し、保存と伝承に尽力する氏の活動は地域の文化の豊かさを守るうえで非常に重要である。また、活動を通じて地域文化の担い手づくりや地域住民の世代間の融和を図り、郷土の歴史と文化の学習の機会を確保するなど、郷土の民俗芸能の保存と伝承に努めてきた氏の功績は誠に多大である。

(学 歴)

昭和41年 和歌山県立新宮高等学校卒業
昭和45年 日本体育大学体育学部卒業

(職 歴)

昭和45年 新宮市立高田小学校講師（東牟婁地方の小中学校講師を歴任）
昭和48年 本宮町立皆地小学校教諭（東牟婁地方の小学校教諭を歴任）
平成7年 本宮町立本宮小学校教頭（東牟婁地方の小学校教頭を歴任）
平成14年 本宮町立四村川小学校校長
平成17年 田辺市立四村川小学校校長
平成18年 田辺市立本宮小学校校長
平成20年 田辺市立本宮小学校校長退職

(主な活動等)

平成14年 本宮町立四村川小学校に赴任後、大瀬太鼓踊保存会の支援を受けて行われていた「大瀬の太鼓踊」の授業に積極的に参加
平成18年 旧四村川小学校・旧本宮小学校・旧請川小学校が統合、本宮小学校校長として、地域から学ぶ民俗芸能継承の取組を継続するとともに、新たに「平治川の長刀踊」を授業に加える
平成20年 熊野本宮伝統芸能教室と熊野本宮伝統芸能子ども教室を発足、「大瀬の太鼓踊」と「平治川の長刀踊」の伝承活動を開始
平成25年 第28回国民文化祭・やまなし2013「民謡・民舞の祭典」に出演、「平治川の長刀踊」を披露
平成28年 熊野本宮伝統芸能教室が大瀬太鼓踊保存会を継承、「大瀬の太鼓踊」の伝承活動をさらに加速させる
令和3年 第63回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会に出演、「大瀬の太鼓踊」を披露

(役職等)

平成20年～ 熊野本宮伝統芸能教室代表、熊野本宮伝統芸能子ども教室代表
平成28年～ 大瀬太鼓踊保存会会長

(受賞歴) ※大瀬太鼓踊保存会として

令和2年 和歌山県教育委員会功労賞（社会教育部門 団体の部）（和歌山県）



ほりいけ まさお

堀池 雅夫 氏

生年月日 昭和26年10月10日生

住 所 田辺市文里一丁目

昭和26年、静岡県清水市（現：静岡市）に生まれる。35歳の時に田辺市に移住し、妻の実家の製^{ほい}煤業を継ぐ。当初は鉱物性油煙を製造していたが、知人の墨屋から懇願され、松の^{すす}煤（松煙）の製造を始める。

時代の流れとともに筆記用具が変化する中、固形墨の需要の減少により、原料となる煤が売れなくなっていったことから、氏は決意し自ら製造した松煙を用いて松煙墨の製作を始めることとなる。

松煙墨は、松煙と^{にかわ}膠を合わせて作る墨であり、奈良時代にはすでに日本で製作されていた。特に紀州松煙墨は、平安時代、熊野詣に訪れた上皇に献上された名墨である。その原料となる松煙の製造は、山村の貴重な現金収入であり、かつて紀州の山々には多くの「^{えんや}煙屋」がいたが、昭和30年代になり、製煤業の過酷さや松材の減少、価格の安い墨の普及により、紀州松煙墨は途絶えていった。その松煙墨の製作を復活させたのが堀池氏である。

古来、松煙は障子で囲った小部屋に^{たきがま}焚窯を設置し、松材を燃やして障子に煤を附着させて採取してきた。氏は障子の代わりに金網を用いつつ、他は全て自身の調査により復元した伝統的な製煤方法を踏襲し製造する。アカマツを10年以上置いておくと周りの部分は白く腐って、油の多い赤みがかった部分だけになり、それを小割にして、小さな炎でゆっくり約2週間をかけて煤を作っていく。500kgの松材を12部屋ある小部屋を順次回りながら、繰り返し燃やして、部屋中にびっしりとこびりつく黒い煤、これが原料となる松煙で、ようやく10kgの煤が取れるという大変な作業である。集めた煤に膠を少しずつ加えながら丁寧に練りこみ、それを型に入れ、灰の中で乾燥させて墨に仕上げるまで半年以上を要する貴重な墨が松煙墨であり、製煤から松煙墨の製作までの行程を一貫して行う職人は全国で氏ただ一人である。

松煙墨は何と言っても、その美しい滲みと青みを帯びた黒い色にあり、書道家だけではなく芸術家にも愛用者が多くおり、氏の松煙墨は、独特のにじみと黒の色彩が高く評価され、平成27年には岐阜県から「清流の国・森の恵み大賞優秀賞」を、また、令和4年には和歌山県名匠表彰を受賞している。

このほか、氏が煤に種々の顔料を加えて膠に練り込み、鮮やかな色を付けた墨を創案し、「彩煙墨」と名付けたその墨は、淡く繊細な色彩で多くの人々に愛用されている。

紀州松煙墨製作の復活は言うまでもなく、彩煙墨の創案など伝統を守りながらも新たな取組に挑戦するとともに、現在もただ1人、墨の製作と向き合い、墨の良さを伝えることで、郷土が誇る紀州松煙墨を未来に残そうと、日々尽力されてきた氏の功績は誠に多大である。

(略 歴)

昭和26年 静岡県清水市（現：静岡市）生まれ
昭和62年 田辺市に転入

(主な活動等)

昭和62年 田辺市に移住、妻の実家の製煤業を継ぐ
平成4年ごろ 田辺市鮎川に工房「紀州松煙」を構える
その後、40年ほど途絶えていた紀州松煙墨の製作を開始
平成10年 墨に顔料を混ぜて色を付けた彩煙墨を開発

(役職等)

昭和62年～ 紀州松煙代表

(受賞歴)

平成16年 きのくに技能奨励賞（和歌山県）
平成27年 清流の国・森の恵み大賞 森の恵み部門 優秀賞（岐阜県）
令和4年 和歌山県名匠表彰（和歌山県）

受賞者コメント

羽根 千恵子

この度は思いもよらぬ田辺市文化賞受賞の連絡をいただき驚きとともに私のようなものでよいのかと戸惑いましたが、同じ志で伝承に取り組む仲間たちの代表としていただくものと思ってありがたくお受け致しました。ありがとうございます。

私が大瀬の太鼓踊と出会って22年、平治川の長刀踊と出会って18年経ちます。その間に“太鼓踊が消えて行く！長刀踊を何とかしなければ！”という思いから、退職後、二つの教室（熊野本宮伝統芸能教室・熊野本宮伝統芸能子ども教室）を発足し、練習を重ねてまいりました。

たくさんの仲間や子どもたち、保護者の皆さんに支えられいろんなところで発表させていただいたことに改めて感謝申し上げます。

この受賞を一層の励みとして、本宮町の和歌山県無形民俗文化財伝承に仲間と共に尽力してまいります。

今後ともよろしく願いいたします。

受賞者コメント

堀池雅夫

この度、田辺市文化賞に選ばれたことは本当に嬉しく、誠に光栄に思います。

私の携わる墨作り職人の仕事は地味で目立たず、同じことの繰り返しであります。

30年以上にわたり続けて来て、ぼつぼつ終活の年齢になり、この時期にこの賞を頂きましたことはこの上なく嬉しく、また新たにやり残した仕事に対して残りの一生をかけてやり遂げたい思いが沸々と湧き上がってきました。

今後も皆さまからのご指導ご鞭撻を賜り、微力ながら和歌山の伝統産業の発展に貢献していく所存であります。

ありがとうございました。

[参考]

田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
1	昭和45年	第1回	故雑賀 貞次郎	地方文化	(故人)		旧田辺市
2	〃	〃	故原 勝四郎	洋画	(故人)		〃
3	〃	〃	故池永 浩	万代記解説	(故人)		〃
4	〃	〃	脇村 義太郎	経済学	(故人)		〃
5	〃	〃	高川 格	囲碁	(故人)		〃
6	〃	〃	早田 卓次	体操	東京都世田谷区		〃
7	昭和46年	第2回	廣畠 鋤和	華道	(故人)	本名 廣畠幾太郎	〃
8	昭和47年	第3回	鈴木 雄三	弓道	(故人)		〃
9	〃	〃	木村 龍平	生活文化	(故人)		〃
10	昭和48年	第4回	山崎 祥石	書道	(故人)		〃
11	〃	〃	益山 英吾	洋画	(故人)		〃
12	昭和49年	第5回	野口 民雄	地方文化	(故人)		〃
13	〃	〃	福本 鯨洋	俳句	(故人)	本名 福本清一郎	〃
14	昭和50年	第6回	森木 啓之	地方文化・邦楽	(故人)		〃
15	昭和51年	第7回	野口 利太郎	地方文化	(故人)		〃
16	〃	〃	坂東 三恵鶴	舞踊	(故人)	本名 高橋つる	〃
17	昭和52年	第8回	中嶋 明	剣道	(故人)		〃
18	〃	〃	小山 周次郎	地方文化	(故人)		〃
19	昭和53年	第9回	前野 忠道	古文書	(故人)		〃
20	〃	〃	玉井 武二	水彩画	(故人)		〃
21	昭和54年	第10回	中井 國之助	生活文化	(故人)		〃
22	〃	〃	辻村 喜一	山藍染	(故人)		〃
23	昭和55年	第11回	赤木 四郎蔵	医療・学校保健	(故人)		〃
24	〃	〃	安部 辨雄	文化財	(故人)		〃
25	昭和56年	第12回	太田 耕二郎	植物学	(故人)		〃
26	昭和57年	第13回	吉田 恒四郎	童話	(故人)		〃
27	昭和58年	第14回	真砂 久一	植物学	(故人)		〃
28	昭和59年	第15回	田ノ岡 鉄一	木版画	(故人)		〃
29	昭和60年	第16回	稗田 一穂	日本画	(故人)		〃
30	〃	〃	曾我部 玄雄	文化財・体育	(故人)		〃
31	昭和61年	第17回	故吉信 英二	社会教育	(故人)		〃
32	〃	〃	原 盾二郎	音楽	田辺市朝日ヶ丘		〃
33	昭和62年	第18回	森内 富三郎	音楽	(故人)		〃
34	昭和63年	第19回	水本 愛堂	書道	(故人)	本名 水本 清	〃
35	平成元年	第20回	辻本 亮三	生活文化	(故人)		〃
36	〃	〃	榎本 はな	生活文化	(故人)		〃

田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
37	平成2年	第21回	吉田 彌左衛門	豆本の出版	(故人)		〃
38	平成3年	第22回	神谷 幸	幼児教育	(故人)		〃
39	平成4年	第23回	南方 文枝	地方文化	(故人)		〃
40	平成5年	第24回	杉中 浩一郎	地方史の研究	(故人)		〃
41	平成6年	第25回	岡安 喜久仕	長唄	(故人)	本名 藤井朝枝	〃
42	平成7年	第26回	外山 八郎	自然保護	(故人)		〃
43	平成8年	第27回	木下 伊吉	生活文化	(故人)		〃
44	〃	〃	脇村 孝三郎	生活文化	(故人)		〃
45	平成9年	第28回	伊勢田 進	考古学	(故人)		〃
46	平成10年	第29回	後藤 伸	生物研究・自然保護	(故人)		〃
47	平成11年	第30回	恵中 三市藏	絵画	(故人)		〃
48	平成12年	第31回	坂東 昌子	舞踊	田辺市中屋敷町	本名 政井昌子	〃
49	平成13年	第32回	寄本 勝美	行政学	(故人)		〃
50	平成14年	第33回	中瀬 喜陽	地方文化	(故人)		〃
51	平成15年	第34回	故鈴木 桂一郎	地方文化	(故人)		〃
52	平成16年	第35回	中田 昌女	華道・茶道	(故人)		〃
53	〃	〃	故小森 陽太郎	社会教育・生活文化	(故人)		〃
54	〃	〃	角 莊三	音楽	田辺市秋津町		〃
55	平成17年	第36回	田上 實	絵画	(故人)		現田辺市
56	〃	〃	宇江 敏勝	作家	田辺市中辺路町野中		〃
57	平成18年	第37回	坂本 勲生	語り部	田辺市本宮町本宮		〃
58	〃	〃	清水 正治	生活文化	(故人)		〃
59	平成19年	第38回	小川 虔道	尺八奏者	(故人)	号: 令山(りょうざん)	〃
60	平成20年	第39回	森本 正男	地方史の研究	(故人)	雅号: 果無山(かむいさん)	〃
61	平成21年	第40回	眞砂 典明	生活文化	(故人)		〃
62	平成22年	第41回	潮 隆雄	染織工芸	(故人)		〃
63	平成23年	第42回	坂本 フジエ	生活文化	(故人)		〃
64	平成24年	第43回	神谷 慧	合唱指導・音楽教育	(故人)		〃
65	平成25年	第44回	玉井 済夫	生物研究・自然保護	田辺市高雄一丁目		〃
66	〃	〃	故牛尾 武	日本画	(故人)	本名 牛尾武司	〃
67	平成26年	第45回	小板橋 淳	地方文化	(故人)		〃
68	平成27年	第46回	政井 和子	地方文化	田辺市中屋敷町		〃
69	〃	〃	古久保 健	郷土史研究	田辺市龍神村殿原		〃
70	平成28年	第47回	芝 安雄	伝統工芸	田辺市本宮町皆地	本名 芝 安男	〃
71	平成29年	第48回	酒井 滋子	ひきこもり支援	田辺市本町		〃
72	〃	〃	濱岸 宏一	文化財保護	(故人)		〃
73	平成30年	第49回	故池田 千尋	地方史研究	(故人)		〃
74	令和元年	第50回	松本 濱次	伝統工芸	田辺市中辺路町野中		〃

田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
75	令和2年	第51回	五味田 聖二	合気道	田辺市稲成町		〃
76	〃	〃	多屋 朋三	地方史研究	(故人)		〃
77	令和3年	第52回	染谷 文代	読書活動の振興	田辺市上屋敷二丁目		〃
78	〃	〃	安井 理夫	小栗判官物語の研究、 伝承	西牟婁郡白浜町堅田		〃
79	令和4年	第53回	石井 和子	短歌	西牟婁郡上富田町南紀の台		〃
80	〃	〃	古守 一晶	市民活動の実践	田辺市新万		〃

※昭和45年～平成16年は旧田辺市における受賞者、平成17年以降は現在の田辺市における受賞者

旧田辺市	54
現田辺市	26
合計	80